

## 第2号議案 2023年度事業計画および収支予算案

### 1. 2023年度事業計画（令和5年3月1日～令和6年2月29日）

学会活動の活性化、会員へのサービス向上と健全な学会財政の確保に配慮して、当学会の設立目的の達成に必要な事業を進める。2020～2022年度事業の実施に影響を与えた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況を引続き注視し、オンラインシステム等を活用しつつ、対面によるディスカッションの確保を図る。

そうしたなかで、従来からの事業とともに、日本学術会議と共催する国際基礎科学年公開シンポジウム「食・土・肥料—持続可能な発展のための基礎科学として」を学会創立100周年事業の一環として開催する。また、学会の将来を担う若手会員の育成および学会創立100周年に向けた事業推進の一助とするための寄付を開始する。

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壌肥料学雑誌（第94巻第2号～第6号および第95巻第1号の計6冊、A4判）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (Vol.69, No.2～No.6, Vol.70, No.1の計6冊、A4判)を刊行する。また、2023年度愛媛大会に際して日本土壌肥料学会講演要旨集（第69集）を電子版として刊行する。

#### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

##### 1) 「土と肥料」の講演会

2023年5月20日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館大会議室において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「肥料高騰における施肥管理の効率化—土壌肥料からのアプローチ」とし、講演者と演題は、鮎沢純子氏（長野県野菜花き試験場 研究員）「イネ科緑肥作物の肥効活用によるレタスの減肥技術の開発」、久保寺秀夫氏（農研機構農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域長）「水田土壌のカリ収支を踏まえた水稻のカリ適正施用指針」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

##### 2) 国際基礎科学年シンポジウム

2023年7月29日（土）、国際基礎科学年公開シンポジウム「食・土・肥料—持続可能な発展のための基礎科学として」を日本学術会議土壌科学分科会およびIUSS分科会との共同主催によりハイブリッド形式（東京農業大学における対面およびオンライン）で開催する。なお、本シンポジウムは、学会創立100周年事業の一環として開催する。

##### 3) 2023年度年次大会

2023年度愛媛大会は、9月12日（火）～14日（木）に愛媛大学城北キャンパスにおいて一般講演の口頭発表およびシンポジウムを行い、一般講演のポスター発表を9月7日（木）～18日（月）にLinc Bizを利用したオンライン方式により行

い、学会賞等授賞式および受賞記念講演を9月13日（水）に愛媛県民文化会館において行う。一般講演では、若手口頭発表優秀賞および若手ポスター発表優秀を選考し、表彰する。また、高校生による研究発表会を行い、優秀発表を表彰する。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員から公募し、これを基に部門長会議で検討して設定する。

学会賞等授賞式では、第68回日本土壌肥料学会賞3名、第28回同技術賞2名、第41回同奨励賞5名、第12回同技術奨励賞1名、第12回同貢献賞1名、日本土壌肥料学雑誌論文賞1件、SSPN Award 2件に各賞を授与する。各賞の受賞者および受賞業績は以下の通り。

#### 第68回日本土壌肥料学会賞受賞者と受賞業績

- ・秋山博子：農耕地における温室効果ガス発生削減に関する研究
- ・唐澤敏彦：緑肥の総合的土壌改善機能の評価とその利用に関する研究
- ・山口紀子：土壌中元素の分子スケールスペシエーション

#### 第28回日本土壌肥料学会技術賞受賞者と受賞業績

- ・大森誉紀：西南暖地における環境調和型施肥・土壌管理技術の開発と普及
- ・中辻敏朗：農耕地の生産環境評価のための手法開発とその活用

#### 第41回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者と受賞業績

- ・安藤 薫：最新技術を取り入れた土壌養分可給性の評価に基づく持続的肥培管理法の提案
- ・黄 勝：イネのミネラル輸送体の機能解明
- ・時澤睦朋：高精度転写制御配列予測による STOP1 が制御するアルミニウム耐性遺伝子発現に関する研究
- ・増田曜子：水田土壌における窒素および炭素循環を駆動する新規微生物群の発見と応用
- ・森下瑞貴：土壌の空間評価・生成分類に関するデータ集約型研究

#### 第12回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者と受賞業績

- ・八木哲生：北海道における飼料用トウモロコシの省資源・環境保全的施肥法に関する研究

#### 第12回日本土壌肥料学会貢献賞受賞者と受賞業績

- ・安西徹郎：部門・部会制度の創設、技術賞・技術奨励賞の新設等に関与し学会の活性化と発展に貢献

#### 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者と受賞論文題目

- ・糟谷真宏、安藤 薫、尾賀俊哉、大橋祥範、久野智香子：愛知県での95年間の長期連用試験における水稻の収量と土壌化学性の変化および土壌カリウム供給機構について 日本土壌肥料学雑誌 第93巻第1号 1～11 (2022)

#### SSPN Award 受賞者と受賞論文題目

- ・Hinako Sugiura、Soh Sugihara、Takehiro Kamiya、Maria Daniela Artigas Ramirez、Minori Miyatake、Toru Fujiwara、Ohyama Takuji、

Takashi Motobayashi、Tadashi Yokoyama、Sonoko Dorothea Bellingrath-Kimura、Naoko Ohkama-Ohtsu : Sulfur application enhances secretion of organic acids by soybean roots and solubilization of phosphorus in rhizosphere Soil Sci. Plant Nutr., 67(4) 400-407 (2021)

- Atsushi Hayakawa、Yasunari Shiraiwa、Naoki Murakami、Yuki Murayama、Tomoko Ishida、Yuichi Ishikawa、Tadashi Takahashi : Influence of surface geology on phosphorus export in coastal forested headwater catchments in Akita, Japan Soil Sci. Plant Nutr., 67(3), 332-346 (2021)

学会賞等授賞式に引続き、第 68 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 28 回同技術賞 2 名、第 41 回同奨励賞 5 名、第 12 回同技術奨励賞 1 名の受賞記念講演および IUSS 会長の特別講演を行う。また、論文賞 1 件および SSPN Award 2 件の受賞者については、受賞記念ポスターを展示する。

受賞記念講演および特別講演に引続き、懇親会を開催する。

### 3) 支部大会等

- 北海道支部：2023 年度北海道支部秋季支部大会・支部総会 (12/8、かでの 2・7、札幌市) を開催する。また、評議員会 (5 月もしくは 6 月、12/8)、野外巡検を予定している。
- 東北支部：2023 年度東北支部大会一般講演、支部役員会、支部総会 (7/19、アイーナいわて県民情報交流センター、盛岡市) および支部大会公開シンポジウム (7/20、同会場) を開催する。
- 関東支部：2023 年度関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する (時期未定、東京農業大学、東京都) を開催する。
- 中部支部：2023 年度中部支部特別講演会・支部大会・支部総会 (11 月、三重県内)、評議員会 (6 月、11 月) を開催する。また、土壌教育活動事業として土壌観察会 (7 月) および岡崎北高校 1 年生対象の連携講座 (8 月) を愛知県豊田市自然観察の森において開催する。
- 関西支部：2023 年度関西支部講演会 (12 月上旬、近畿圏内)、関西土壌肥料協議会シンポジウムおよび関西支部と関西土壌肥料協議会の合同役員会 (講演会の翌日) を開催する。
- 九州支部：2023 年度九州支部例会、支部賞選考委員会、支部常議員会並びに支部総会 (12/14~15、九州大学西新プラザ、福岡市) を開催する。
- 支部長連絡会：2023 年度愛媛大会期間中に支部長連絡会を開催し、支部間および本部一支部間の情報および意見交換を行う (9/14、愛媛大学城北キャンパス、松山市)。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 69 回日本土壌肥料学会賞、第 29 回同技術賞、第 42

回同奨励賞、第13回同技術奨励賞、第13回同貢献賞、日本土壌肥科学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

#### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・日本農学会に協力し、日本農学会シンポジウムのテーマ企画および話題提供者の推薦を行う。
- ・日本学術会議の発信情報を、学会 HP などを通じて会員へ提供するとともに、土壌科学分科会、IUSS 分科会などと連携して IUSS の諸活動にコミットする。
- ・ESAFSサポートオフィスを通じて関連情報を発信する。
- ・当学会が加盟（オブザーバー加盟を含む）している地理学連携機構、福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会、男女共同参画学協会連絡会を通じて関連学協会と連携する。
- ・第34回国際生物科学連合総会（3/9～12、東京）を共催する。
- ・第35回環境工学連合講演会（5/30、オンライン）を共催し、本学会の草佳那子会員が「持続的な食料生産システム構築に向けた土壌肥料分野の取り組み（仮題）」を講演する。
- ・第60回アイソトープ・放射線研究発表会（7/5～7、東京）を協賛する。
- ・国際基礎科学年公開シンポジウム「食・土・肥料—持続可能な発展のための基礎科学として」（7/29、東京農業大学、東京都）を共催する。
- ・日本ペドロロジー学会と共催する第7回国際土壌分類会議（2024.6、北海道）の事前調査経費の一部を支援する。

#### 5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、中長期視点から財政収支バランスの改善策を検討し、理事会へ提案する。
- ・国際対応：①IUSS、ESAFS を中心に情報収集・発信および渉外対応により、国際土壌の10年関連活動を継続する。②IUSS 会長を愛媛大会に招聘し、特別講演等を行う。③2024年度に共催または後援予定の日本開催国際会議の準備を行う。
- ・部門長会議：①年次大会におけるシンポジウム企画応募案の検討および一般講演プログラムの編成、優秀発表賞の選考を行う。②会誌進歩総説、欧文誌特集の企画を検討する。
- ・土壌教育委員会：①愛媛大会において高校生による研究発表会を実施する。②教員研修およびその他の普及事業を行う（時期および場所未定）。
- ・広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②フェイスブック等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロ 2023 にブースを出展

する（12月）。③学会創立100周年ロゴマークを選定し、広報に活用していく。

## 6. その他

本学会の目的達成のため、以下の事業を行う。

- ・外部の顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・学会創立100周年事業推進、若手会員支援の一助とするため、寄付募集を開始する。
- ・会員確保の一環として、賛助会員へ提供するサービスの拡充を図る。
- ・学会創立100周年へ向けて、記念事業の企画検討を進め、その財政基盤の確保を図りつつ、先行して取組む一部事業を開始する。